

<目指す学校像>

「人と人とのが交わり、心の交流が実感できる温かな学校」

所沢市立狭山ヶ丘中学校「学校だより」 — 令和7年1月 —

URL : <https://tokorozawa-sayamagaoka.edumap.jp/>



狭中だより

[学校教育目標]

『自立と共生』

校長 石原 健

謹賀新年

あけましておめでとうございます

皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます

本年もよろしくお願いいたします



今年の干支について（始業式講話より）※冒頭のあいさつは省略

今年の干支は「巳年」です。昨年の辰年と今年の巳年について興味深い話をラジオで聞いたのでここで紹介したいと思います。

昨年の辰年、辰（竜）は古来より縁起がいい生き物とされています。加えて、十二支で唯一の架空の生き物です。日本でも水神としてまつられるなど、神聖な存在とされています。先ほど話したように辰（竜）は架空の生き物であるため、実物を目にするにはできません。そのラジオ番組では、「昔の人たちは目に見えない竜を地下水脈として捉えていたのではないか。そしてその目に見えない地下水脈が目に見える形で蛇口（蛇の口と書く）から出てくるのだ。」と辰年から巳年へ移り行く関係性を表現していました。少し飛躍的な解釈だなあ…と感じながらも「とても面白い!」と感じました。

今年の干支である巳年は蛇。蛇は古くから世界の各所で神秘的な生き物としてあがめられています。巳年と言えば、蛇が脱皮する（皮を脱ぎ捨て成長すること）ことから、変容や成長を意味する年とされています。

辰年から巳年へバトンタッチした本年。辰年での（言うなれば今までの）目に見えない努力の積み重ねが、巳年に形になる年なのです。ちなみに努力をあまり積み重ねなかった人もそれなりに形には現れるそうですので、心配しないでください。

今、お話したことはある一面からの巳年の捉え方です。必ずしもその様になる訳ではありません。一般的には巳年は様々な事象が、姿、形に現れる年だと言われています。自分の成長が感じられる一年にそして自分を成長させる一年にしていきましょう。



箱根駅伝の記事に思う…

今年の箱根駅伝は青山学院大学の優勝で幕を閉じました。青山学院大学の総合記録は大会新記録、総合2位の駒澤大学の復路記録も大会新記録でした。総合11位で惜しくもシード権を逃した順天堂大学の記録は、平成21年に総合優勝した駒澤大学の記録より1分4秒も速い記録だそうです。年々記録は向上していますが、ここ数年の高速化は毎年衝撃的です。高速化の理由の一つとして、厚底シューズの登場はよく耳にしますが、今回気になる記事を発見しました。それはチーム内外問わず誰かが記録を伸ばせば、周りも引っ張られるという「空気感」が選手たちの中にあるというのです。（「アイツができるならオレもできる」と言ったところでしょうか?!）その記事には「人間の成長は脳内改革。常識を変えること」とあり、選手たちは意識を高く持ち、高いレベルで影響し合っていることが成果として現れているとありました。

ここで紹介したことは、駅伝（長距離走）のトップレベルの話だけではなく、人の成長、集団の成長にも同じことが言えます。「意識を変える」という作業は、人が成長するためには欠かせない視点の一つでもあります。「誰かが記録を伸ばせば、周りも引っ張られるという『空気感』も学校という場所は、人と人とのが影響し合って成長する場所ですから大切な視点です。「個が飛び抜け、それに引っ張られ別な個が成長していく…その結果、集団としても成長していく」、今回の記事を読み終えた後、狭山ヶ丘中もそんな場所でありたいと強く感じました。